

2【家庭学習】 「全県共通課題」の検証方法と目標値

11月19日、新聞各紙に、県内市町村立小中学校の児童生徒を対象に実施した『2009年度学習定着度状況調査』の結果公表の記事が掲載されました。同調査の質問紙調査における家庭学習時間は、小学校では「30分以上1時間未満」が、中学校では「1時間以上2時間未満」が最も多く、3年連続同じ傾向ですが、1時間以上家庭学習をする児童生徒は、昨年度より増加しています。

しかし、平均正答率が低かった中学2年生の約半数が、1時間未満の学習時間であり、家庭学習が学習の定着には欠かせないことを浮き彫りにしました。部活動や生徒会活動等の中心となり、何かと忙しい中学2年生ですが、学校や周囲の大人が優先順位や時間配分のバランス等を考え、家庭学習の時間を確保してあげる必要があるのではないのでしょうか。それこそ、5者の連携・協力です。

また、11月24日に開催された岩手県の『学力向上推進会議』では、「児童生徒の学力向上につながる家庭学習の習慣化のために」をテーマに協議がおこなわれました。

その中で、「地域で取り組む家庭学習の習慣化（教育振興運動の全県共通課題の取組）」について釜石市教育振興運動協議会から、また、「家庭学習を活かした授業の展開」について盛岡市立飯岡中学校から発表がありました。飯岡中事例⇒http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei_iioka.pdf

今、岩手県の教育においては、「授業力向上（授業改善）」と「家庭の教育力（家庭学習の充実）」が大きなテーマであり、学校でも、教育振興運動でも全県的に取り組んでいくこととしています。

そこで、家庭・地域・行政・子ども自身が意識を高め、学校の「まなびフェスト」を支援するものとして、「家庭学習の充実」と「読書活動の推進」の2つを教育振興運動の『全県共通課題』として提案しているところです。

今年度の各学校・実践区の取組は、いかがでしたでしょうか？学習定着度状況調査の結果（各学校の児童生徒の実態）を分析しつつ、今年度の取組を総括し、その改善策を次年度の取組として下さい。Plan（計画）→Do（実践）→Check（評価）→Action（改善）のサイクルにより、マンネリ化は打破されます。

そして、取組には「検証の流れ」と目指す「目標値」が必要です。そこで、この度、この2点についての提案をします。目標値は、県全体としてのものですので、これを参考に各学校・実践区の児童生徒の実態に即した目標値を独自に設定し、取り組んでいただきたいと思います。

関係資料はこちらです。各市町村の集約大会・集約会議で活用ください。

検証の流れ⇒<http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/21kensyou.pdf>

県の目標値⇒<http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/21mokuhyou.pdf>

3【読書推進】 得々！ブックトーク（第1回）

「読み聞かせ」は、子どもを本の世界にいざなう読書の入り口であり、楽しいひとときを子どもと共に過ごす親子のふれあいの時間をつくるものです。その入り口を通して本の面白さを知った子どもに、自分から本を読みたいと思わせ、子どもの読書の世界を広げるのが「ブックトーク」です。

「ブックトーク」とは、ひとつのテーマを決め、それに合った何冊かの本を一定時間内に聞き手に紹介する方法です。「読み聞かせ」や「朗読」とは違って、本を最初から読んでいくことはせず、また単にその本の内容を紹介するものでもありません。その本の面白さを伝え、読んでみたいという気持ちを起こさせるものです。

テーマに合った本を織り交ぜながら、本のどのページをどう紹介するかを考えたシナリオを準備して本番に臨みます。本番は、聞き手の反応に合わせて本を紹介し、終わった後に紹介した本を直ぐに手に取ることが出来るように、また借りることが出来るようにしておきます。

1回に要する時間は、子どもが集中できる時間を考えて15～20分程度、紹介する本は3～5冊程度がよいでしょう。対象は、自分で本を読みたがるようになる小学校中学年以上であれば大丈夫です。

図書館や学校で、子どもたちに対して図書館司書、先生、読書ボランティアがおこなうことが多いのですが、子ども自身が同級生や下級生に紹介する形も、子ども自身の読書への意欲喚起となるでしょう。

また、ボランティア同士で本を紹介し合ったり、親向けに読み聞かせのお勧め絵本の紹介をするなど、対象は子どもに限りません。図書館や学校がおこなうだけでなく、公民館活動や地域の取組として企画するのも楽しいと思います。

中学生に読み聞かせをすることに、抵抗がある方も多いのですが、大人の入り口である中学生は「ブックトーク」は最適年齢です。不読者が多い中学生の読書推進の方法として、学校や読書ボランティア、教育振興運動としても取り入れて欲しいと思います。

次回は、「ブックトークのシナリオづくり」についてです。

4【教振は今】教ちゃん、振ちゃんをつぶやき（見聞録番外編）

（振ちゃん）はあ～。

（教ちゃん）どうしたの？振ちゃん。

（振ちゃん）だって、12月だよ。クリスマスや冬休み、お正月だけなら、楽しいけど……。その前に、通信簿が……。はあ～。

(教ちゃん) な～んだ。そんなことで落ち込んでるの？
(振ちゃん) だってさ、通信簿で褒められたことは、1度もないんだよ。
(教ちゃん) 1度も？確かに、お父さんやお母さんは、自分は褒めているつもりでも、子どもからするとそう受け取れないことが多いもんね。
(振ちゃん) そうだよ。僕さ、今年、初めて泳げるようになったんだよ。うれしくて、家に帰ってすぐお母さんに報告したら、「わあ、すごい。よくやったわねえ。」って、言ってくれたんだ。
(教ちゃん) よかったじゃない。褒めてもらって。
(振ちゃん) それで、終わればね。その後に、「今度は10mを目指して、頑張ってみてね。」って続くんだよ。何か、「もっと頑張れ」ってお尻をたたかれたようで、褒められた気がしないよ。だからさ、通信簿を見せたら、「もっと頑張って、勉強をきなさい」って、言われるに決まってるよ。
(教ちゃん) そうね。「頑張ったね」、「すごいじゃないか」って、思いっきり褒めてくれたら、やる気も出るのにね。たとえ悪くても、「ダメじゃないか!」、「何やってんだ!」ではなく、「どうしてだと思おう?」とか「じゃあ、次はどうしたいかな?」って投げかけられたら、頑張ろうって気持ちになると思うわ。
(振ちゃん) それとき、「お前は、素直で良い子だけど、勉強は苦手だな」と「お前は、勉強は苦手だけど、素直で良い子だな」では、内容は同じだけど、後の言われ方のほうがスッと心に入ってくるよね。
(教ちゃん) 「お前、最近家庭学習を頑張っているな。勉強は苦手だけど、決めたことをちゃんとやってえらいぞ。(褒める→叱る→褒める)」なんて言われたら、すぐにでも勉強をやる気になっちゃうわ。

5 【みんなの声】ぺっこ言い隊

いつも楽しく読んでいます。

6年生の娘が歴史のマンガを読んでいた時、ちょっと意地悪な話をしてみました。

私「聖武天皇はどんな人？」

娘「国の平和を祈って、大仏をつくった人」

私「でもさ、大仏をつくるために、わざわざ東北まで攻めてきて、金をたくさん奪って行ったんだぞ」

娘「えっ？　でも、教科書やこの本にはそう書いてあった」

私「兄弟でケンカしても、どっちかだけが悪いってことはないでしょ？

それと同じで、歴史は両方の立場から見なきゃいけないってこと！」

娘「お父さん、屁理屈が得意だね」

私「(無言)　歴史はね、勝った人が書き残したものなの」

家庭教育の道のりは厳しそうです。(H町 Cさん)

メルマガの感想や日頃思っていることをどんどんお寄せください。

⇒ 21kyoushin@gmail.com

6 【編集後記】あつしのひとりごと

私は、お笑い芸人の「宇宙海賊 キャプテン・ヘビー・ゴー☆ジャス」さんが大好きです。元・社会科教員として、とっても親近感を感じています。

そのネタとは・・・、ショートコント『教育テレビ』。

「TVの前のみんな～、こんばんわー！」（と、声をかけ、耳を傾ける）

「あれあれあれ～？元気がないぞ～。」（と、子どもたちに問いかける）

「もう一回！皆さ～ん、カンボジアー！」（と言った後、地球儀を取り出して）

「って、それココッ！」（と、カンボジアの場所を指差す）

その他・・・ショートコント『雪山』では、「寝ちゃダメだ！まだ助かる、まだ助かる、マダガスカル」「って、それココッ！」と地球儀を指差す・・・など。

いかがですか？国名・地名がわからないとダジャレがわからず、笑えない。また、地球儀で場所を指差されても、わかる人にしかわからない。（そんな、社会科教員の心をくすぐる芸人です。）

・・・と、「わからない」まま終わらせて、いいのでしょうか？ニュースや旅行番組、世界中を旅するバラエティ番組でも、国名・地名はいっぱい出てきます。居間に地図帳や地球儀を置いておいて、その名前が出てきた時に、「どこにあるのだろうか？」と子どもと一緒に探してみると、子どもの学習になります。

また、トランプのカードを親子で1枚ずつ一緒に出し、出されたカードの数字を素早く足し算（暗算）する（2枚ずつ出して、すべてのカードの足し算をする）など、早く暗算をする練習を遊びながらやると、楽しく学習できます。

勉（つと）めて強（し）いる学習は、親も子もつらくなります。テレビを見て会話をしながら、出かけた時の体験の中で、親子で遊びながら、子どもの学習につながるような工夫や環境づくりを、親自身が楽しみながら出来たらいいですね。

「なんで～？」を繰り返していた幼児の頃を思い出してください。子どもは本来、知的好奇心がいっぱいの知りたがりです。親は、その子どもの知りたい気持ちをサポートしてあげれば、いいのではないのでしょうか。

⇒ 第11号は、12月22日（火）配信です。

★このメールへの感想、ご意見・ご要望は、こちらまで。

⇒ 21kyoushin@gmail.com

★教育振興運動に関する資料は、こちらまで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index.html>

★生涯学習の役立ち情報なら何でも「まなびネットいわて」まで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/>

★子育てに迷ったら、ひとりで悩まず「子育ていわてケータイサイト」に。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kt-shien/>

~~~~~配信元~~~~~

\* 岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

\* 発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士（さとう あつし）

転送はご自由です。どんどん転送してください。口コミは、あなたから始まります。「みんなでやろう！」という雰囲気をあなたから作りだしてください。

⇒ 学校新聞の裏面に掲載しての各家庭への配布、回覧板を使つての  
自治会・子ども会への回覧も大歓迎です！

~~~~~